

FAO / WHO 合同食品規格計画

第 15 回アジア地域調整部会

日時 : 2006 年 11 月 21 日 (火) ~ 11 月 24 日 (金)

場所 : ソウル (大韓民国)

議 題

1 .	議題の採択
2 .	コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項
3 .	ステップ 4 でのコーデックス規格原案の検討
(a)	コチュジャンの規格原案
(b)	ジンセンの規格原案
(c)	発酵大豆ペーストの規格原案
(d)	非発酵大豆製品の地域規格原案
4 .	能力開発を含むコーデックス委員会の作業を補完する FAO/WHO の活動について
5 .	各国の食品管理システム及び食品規格策定における消費者の参画に関する情報
6 .	各国及び地域レベルにおけるコーデックス規格及び関連文書の使用に関する情報
7 .	地域調整国の指名
8 .	その他の事項及び今後の作業
9 .	次回会合の日程及び開催地
10 .	報告書の採択

第 15 回アジア地域調整部会の概要

1. 開催日及び開催場所

平成 18 年 11 月 21 日（火）～11 月 24 日（金）
ソウル（韓国）

2. 参加国及び国際機関

19 加盟国、3 オブザーバー国、3 国際機関等が参加、参加者総数は約 90 名

3. 我が国からの参加者

農林水産省消費・安全局	国際基準課長	小川	良介
	同課課長補佐	宮廻	昌弘
	同課係長	蚊爪	佐和子
農林水産政策研究所	政策研究調整官	遠藤	芳英
厚生労働省医薬食品局食品安全部			
	企画情報課国際食品室長	依田	紀彦
テクニカルアドバイザー			
（独）農林水産消費技術センター企画調整部国際課		本田	雪絵
全国味噌工業協同組合連合会	常務理事	小畑	圭秀
日本豆腐協会	専務理事	木嶋	弘倫
ハウス食品株式会社ソマテックセンター開発業務支援部			
	2 グループ長	永留	佳明

4. 主要議題の概要

議題 3. ステップ 4 における規格原案の検討

(a) コチュジャンの規格原案

ステップ 5 へ進め、ステップ 6 以降は穀物・豆類部会（CCCPL）で検討するよう総会に勧告することが合意された。

- ・ 我が国が提案した任意原料及び食品添加物は、追加された。
- ・ 分析法について、我が国より妥当性評価に必要なデータが不足しているとの指摘を行ったが、分析・サンプリング法部会での検討を求めることされた。

(b) ジンセンの規格原案

ステップ 5 へ進め、ステップ 6 以降は関係する個別食品部会（生鮮果実・野菜部会（CCPFV）が望ましい）において検討するよう総会に勧告することが合意された。

- ・ ジンセンを医薬品としてのみ取り扱っている国もあることを考慮し、「本規格は、対象とする製品が食品として規制されている国にのみ適用される」との文章を追加することとされた。
- ・ 製品のタイプから「その他のタイプ」を除き、これに伴い対象とする種のうち *P. notoginseng* Burk を削除することが合意された。
- ・ 品質要件のジンセノサイドのうち、Rg1 が削除された。

(c) 発酵大豆ペーストの規格原案

品質要件、2つの食品添加物及び最小充てん量は引き続き検討されることとされ、それ以外はステップ4に留められた。品質要件を検討するため、韓国を議長とする電子作業部会が設置された。

- ・ 品質要件のうち、「粗脂肪」は削除された。
- ・ 品質要件の数値については、我が国より、提案されている AOAC 法は修正の必要があり、分析法が合意された後に再度分析を行い数値を決定する必要があると指摘した。これを踏まえ、当該規程は括弧付きとし、分析法が決定された後、検討を行うこととされた。
- ・ 食品添加物は、サッカリンナトリウム及び酵母エキスを除き、我が国の提案を含め提案された添加物を追加することが合意された。
- ・ 表示については、国内制度で認められている名称を使用可能とするよう修正された。
- ・ 分析法については、我が国の指摘に基づき修正を加えた上で、原案に含まれている分析法について合意された。

(d) 非発酵大豆製品の地域規格原案

ステップ2に戻し、中国及びタイを議長とする電子作業部会を設置し改訂案を作成することとされた。

- ・ 原案には、広範囲の製品が含まれており共通の特性が少なく inclusive な規格となり得ない、また、これらの多くはほとんど貿易がないため、対象範囲について再検討すべき(日本) できるだけ多くの製品を対象とすべきであるが対象製品の種類と名称を明確にすべき(タイ、マレーシア、韓国)等の意見が示された。
- ・ 作業部会で検討した結果、以下の4つの分類を対象とすることとされた。
豆乳、豆腐(豆腐及び凍結乾燥豆腐)、圧縮豆腐(豆腐干)、ゆば
- ・ この分類を基本として改訂案が作成され、この4つの分類が適切であるかも含め、次回部会において検討される。

議題 4 . 能力開発を含むコーデックス委員会の作業を補完する FAO/WHO の活動

FAO 及び WHO の担当者より、科学的助言のための専門家会合の開催、途上国のコーデックス委員会への参加支援、リスク分析に係るマニュアルの作成、リスク分析に係る能力開発プロジェクトの実施等に関する報告がなされた。

各国からは、リスク分析手法、化学物質のサンプリング法・分析法、遺伝子組換え体の検出法、輸出入食品の検査・認証等に関する能力開発について要望がなされた。

議題 7. 地域調整国の指名

インドネシアが立候補し、次回総会において指名される次期アジア地域調整国にインドネシアを推薦することが合意された。

議題 8. その他の事項及び今後の作業（新規作業提案）

(a) 「チリソース」及び「さご椰子粉」の規格

タイより「チリソース」、インドネシアより「さご椰子粉」規格策定の提案が CRD（会議中に配布される文書）によりなされた。我が国から、突然の提案であり、国内関係者の意見を聞くことができず、これら関係者の意見を反映できないため、現時点では支持できない旨発言した。しかしながら、他に反対はなく、多数の国が本提案を支持したため、本新規作業提案を次回総会に提出することが合意された。我が国は、この決定に対し留保した。

(b) CCASIA における戦略的計画の策定

マレーシアより、アジア地域の戦略的計画の策定を行うべきとの提案がなされ、合意された。今次部会で示された案文に対する各国のコメントをもとにマレーシアが改訂案を作成し、次回部会で検討される。